

事業名称	木更津プリンフェスティバル		
団体名 (構成人数)	木更津プリンフェスティバル実行委員会(11名)	代表者	秋山 亮太
事業の内容	・毎年1回(暫定)のイベント(木更津プリンフェスティバル)開催 ・参加店の飲食店がわかる地図(プリンマップ)の作成(WEBと紙面)		
審査基準: 「公益性・実現性」			
事業の必要性と目的 審査基準: 「公益性」	目的: プリンフェスティバルをきっかけに市内はもちろん市外、県外からの人口流入を増やし、木更津地域の魅力、木更津、近隣地域からの参加店様の魅力を知っていただくことで、その後の木更津を中心とした近隣地域に対してのアクセスを促し、地域活性化への貢献を目的としています。 2024/10/14の第一回開催で約5000名を超える方に来場していただくことができました。実行委員会だけでなく、参加店様や木更津市内様々な方々にご協力いただきながら、イベントの回数を重ね、木更津といえばプリンとなるような地域の一体感を作り上げることで目的達成を目指しています。 必要性: イベントの開催や通年のプリンマップなどの施策により、参加店舗様へのお客様の導線をサポートすることで参加店様の売り上げ増加、また、市内、近隣住民の皆様のお客先のご提案をすることで地域活性化に貢献できると考えております。 また、2回、3回とイベントを育て定着させていくことで、木更津の飲食店を中心に独自のプリンが創出できるようになり、参加店舗の増加も見込んでいます。令和8年度以降の駅前通りの完成後などに富士見通りでイベントの開催ができれば、市民の皆様に新しい木更津のイメージや、参加していただく事業者様にも富士見通りでのテナント利用イメージをより強くしていただくなど、木更津市の課題でもある市内への回遊のきっかけづくりにも貢献できると考えております。		
スケジュール 審査基準: 「実現性」	4月～ イベント参加店舗、ボランティアスタッフ募集開始 4月～ プリンマップ掲載店舗募集 10月、11月 イベント開催(会場スケジュールにより前後) 12月～ プリンマップ作成(WEB、紙面)		
事業の特色 審査基準: 「独創性」	木更津を盛り上げていきたいという木更津市の事業者様やボランティアスタッフを中心としたイベント運営、近隣地域の参加店様と来場者様の参加型のイベントとなっており、双方が地域の魅力を感じながら地域の未来をイメージできるイベントになっています。		
来年度以降の事業展開予定 審査基準: 「発展性・自立性」	イベントの定期開催 プリンマップによる、参加店様の案内 参加店様への流入の創出		
過去の活動実績	第一回来場者様数5000名以上(1時間当たり) 11:00～13:00は出入りがあったものの5000名前後をキープ 参加店様、キッチンカー出店者様の売り上げ平均25万円		

令和7年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 1

事業名称	木更津プリンフェスティバル			
団体名 (構成人数)	木更津プリンフェスティバル実行委員会(11名)	代表者	秋山 亮太	

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		プリンマップ作成 費用	300,000	デザイン (WEB、 紙面) サイト作成費用
イベント出店料	600,000	参加費3万円×20 店舗	会場利用料	300,000	イベント会場、駐 車場、トイレ
			備品購入、レンタル 費	150,000	備品、設備関連
			イベント販促物	300,000	集客用販促物、当 日のマップや掲示 物など
			ゴミ収集費用	50,000	
合計	1,100,000		合計	1,100,000	

事業名称	きさらづエンゼルアーティスト		
団体名 (構成人数)	Rの会／きさらづエンゼルアーティスト(8名)	代表者	桐石 芳明
事業の内容	<目的> 木更津市中心市街地（主に西口界隈）の活性化を目的とし、賑わいの創出による、人が集い交歓する環境づくりを目指しています。 <特徴> 公共空間（歩道、ストリート）の「道路占用及び使用許可」を取得し、それを活用したアーティストのストリートフリーライブ、マルシェ、フリーマーケットなどを毎週日曜に開催しています。観覧は無料です。 アーティスト（音楽、大道芸、その他）の登録、予約システム（無料）を実施しています。 ※雨天、荒天等の場合は中止、または順延となります。また出演アーティストやイベントの予定がない場合は、休止となります。 <開催場所> 木更津駅西口前、きぬ太像前（面積共に10m×4m） ※その他／公園、スパークルウッドデッキ、西口界隈の店舗など <機能> 音響機材（PAシステム、マイク、その他機材）を無料にて提供しています。 コミュニケーション（WEBサイト、YouTube、SNSなど） ヴィジュアル制作（ポスター、チラシ、のぼりなど） WEBサイトにアーティスト登録、予約システムがあります。 ※アーティスト登録、予約は、無料です。 ■令和7年度の活動方針 アーティストのフリーライブに加えて、フリーマーケット等にも空間を開放し、より人が集う機会の創出を目指します。※飲食、物販の許可取得済 <登録、予約制によるフリーライブ> プロ、アマ問わず、登録・予約制にて無料でアーティストに公共空間を解放します。 音楽、ダンス、大道芸、アートなど多様な表現を可能とします。 <独自企画イベント> きさらづ楽市（エンタメマーケット）の開催（予定／5月、10月） きぬたろく（音楽フェス）の開催（予定／4月～3ヶ月に1回、年4回開催） 新規／渡辺あゆ香マンスリーフリーライブ（毎月、第4日曜に開催） 新規／きぬたフリーマーケット（きぬ太前にて開催） 新規／アート関連イベントを予定（テーマ／日常から非日常へ）		
事業の必要性と目的	<必要性> 中心市街地の活性化とは、人が集う機会を創出すること 中心市街地の活性化を目的に、特に木更津駅西口の賑わい創出を活動の中心としています。駅西口は、かつては地域の一大繁華街として賑わっていましたが、現在それは見る影もありません。 駅西口には、人が集うモノ、コトという環境がなく、寂しい空間がただ広がるばかりです。このような現状を少しでも改善し、賑わいを創うことはできないだろうか、という思いが動機となり、現在の活動を行なっています。 <目的> 中心市街地（特に西口界隈）の活性化を目的とし、賑わいの創出による、人が集い交歓する環境づくり 駅西口には訪れる動機となるモノ、コトが少なく、新たな訪れる機会を創出すれば、人は集まるはずである。人が集まれば、新陳代謝が起こるきっかけとなり、結果として街にイノベーションが生まれると考えます。		

事業名称	きさらづエンゼルアーティスト		
団体名 (構成人数)	Rの会／きさらづエンゼルアーティスト(8名)	代表者	桐石 芳明
スケジュール	<実施予定日> 年間＝毎週日曜日 実施予定日数＝52日の実施予定 時間＝11:00～17:00(夏季11:00-20:00、冬季11:00～16:00) 場所：木更津駅西口前、きぬ太像前 その他：鳥居崎海浜公園など <備考> 雨天、強風などの場合は、中止となります。また企画イベント、出演者がいない場合は、休止となります。 ※日曜以外(土曜等)に開催する場合があります。(許可取得の上)		
事業の特色	<特色> 公共空間の利活用を基本とする。 公共空間(木更津駅西口前、きぬ太像前)の利活用を基本として、道路占用及び使用許可を取得し、アーティスト(音楽、大道芸、アート、その他)に無料で活動機会を提供しています。また独自企画の集客イベントやマルシェを開催しています。その他、イベント開催サポートなど。 <機能> 道路占用及び使用許可を取得したストリートエンターテイメント環境の提供 音響機材(PAシステム、その他機材)を無料にて提供しています。 コミュニケーション(WEBサイト、YouTube、SNSなど) ヴィジュアル制作(ポスター、チラシなど) イベントの企画、開催をサポートしています。 当会WEBサイトにアーティスト登録、予約システムを用意しています。		
来年度以降の事業展開予定	1. 登録・予約制にて無料でアーティストに公共空間を解放する活動を引き続き継続していきます。 ・ストリートライブ(プロアマ問わず)など 2. 「きさらづ楽市」(エンタメマーケット)の開催 ・ストリートエンターテイメント&マルシェ(飲食、物販等の屋台)を融合した企画イベントを引き続き開催します。 場所：きぬ太蔵前、スパークルシティのウッドデッキ上 3. 「きぬたフリーマーケット」毎月開催 ・公共空間の占用・使用許可を利活用したフリーマーケットの定期開催 4. アートイベントの開催 ・日常を非日常へと変える、1日限りのアートを限定公開 ※なお、前年度の状況により選択と集中を行う場合があります。		

事業名称	きさらづエンゼルアーティスト		
団体名 (構成人数)	Rの会／きさらづエンゼルアーティスト(8名)	代表者	桐石 芳明
過去の活動実績	2020年11月開始～2025年1月現在、5年目に入っています。 開催場所：木更津駅西口前、きぬ太像前、鳥居崎海浜公園、内港公園など ＜これまでの年間実施日数＞ 2020年度11月～3月＝10日の実施（コロナ緊急事態宣言による中止あり） 2021年度＝27日の実施（コロナ緊急事態宣言による中止あり） 2022年度＝41日の実施 2023年度＝35日の実施 2024年度＝30日の実施 注記：雨天、荒天の場合は、中止となります。イベント、出演アーティストがない場合は、休止となります。（一部企画イベントでは、雨天時に木更津焼きそば（人参湯）にて開催しています） ＜その他＞ 木更津ナチュラルバル、その他行事にアーティストの仲介をしています。 場所：鳥居崎海浜公園、駅構内など		

令和7年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 2

事業名称	きさらづエンゼルアーティスト			
団体名 (構成人数)	Rの会／きさらづエンゼルアーティスト(8名)	代表者	桐石 芳明	

収支予算書

収入項目	金額(円)	備考	支出項目	金額(円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	202,000		印刷製本費	48,000	ポスター、チラシ、のぼり等
スポンサー収入	20,000	のぼり広告料	通信運搬費	50,000	レンタルサーバー、ドメイン、アプリ等
マルシェ出店収入	78,000	出店料 3000円×26店	備品購入費	30,000	音響機材、その他 備品(テント等)
当会負担金	3,000		消耗品費	65,000	コピー代、その他 事務用品等
			使用料・貸借料	110,000	マルシェ会場費 2日分(スパークル ウッドデッキ)
合計	303,000		合計	303,000	

事業名称	福祉、教育及び青少年育成を目的としたアンサンブル演奏活動		
団体名 (構成人数)	木更津シニアアンサンブル「アクア」(22名)	代表者	津田 望
事業の内容	①障がい児・者施設での慰問演奏 ②高齢者施設での慰問演奏 ③児童養護施設でのお楽しみ演奏会 ④小中学校での教育を目的とした演奏会 ⑤定期演奏会の開催		
事業の必要性と目的	私たちは平均年齢ほぼ70才のシニアのアンサンブルです。構成楽器は、バイオリン、フルート、クラリネット、トランペット、サクソ、トロンボーン、鍵盤ハーモニカ、キーボード、パーカッション、ピアノ、ドラムスなど幅広く、演奏曲目はクラシックから歌謡曲、童謡、唱歌などです。演奏プログラムは、演奏場所や対象者、対象年齢などで内容を変化させています。メンバーのほとんどは仕事をリタイアしているシニア層です。 この楽団の使命は、大きく2つあります。 ①活動の内部的意味：定期的音楽活動は高齢者福祉である ②活動の外部的意味：慰問演奏会開催は福祉的、教育的、社会貢献的活動である ①活動の内部的意味：楽団の活動そのものが高齢者福祉 現在独居高齢者の孤立化が大きな社会問題となっています。ここから認知症の増加や孤独死の問題が表面化しています。シニアアンサンブルの活動は、ほぼ毎週楽器を持って集まり、1回3～4時間のアンサンブル指導を受け、パート練習をしたり、任意に集まってグループを作るなどしてアンサンブルを楽しんでいます。このことが、以下のような効用があると思われます。 ア、楽器を操作することなどで手指機能の向上 イ、仲間といることでコミュニケーション機能の改善 ウ、楽譜を読むことで認知力を高める エ、団員との談笑を通して心や身体の機能を改善 オ、楽器を持って外へ出る事そのものが、孤立化を防ぎまた運動になる カ、演会などへ参加することで社会的責任感を感じる キ、人のために演奏し、喜んでいただけることで生きがいや自己有用感をもつ ク、新しい環境の人々に出会い、知らない環境にいる子どもなどを知る 等々多くの効用があります。また団員の家族からも「楽団活動を始めてから明るくなった」「話題も増え良く話すようになった」などのコメントを頂いています。このように、活動をしている高齢者にとっても心身の健康維持のためになっていると言えます。 ②活動の外部的意味：慰問演奏開催は福祉的、教育的、社会貢献的意味をもつ活動 楽団としての活動は、以下のようなところで演奏会の開催をしています。 ア、障がい児・者施設での慰問演奏 イ、高齢者施設での慰問演奏 ウ、児童養護施設でのお楽しみ演奏会 エ、小学校での教育を目的とした演奏会 オ、定期演奏会 ア、障がい児・者施設での慰問演奏 2024年度は障がい児・者の施設の演奏会を2回開催しました。2回とも大変好評で、また開いてほしいという依頼を受けています。 ・障がい児・者へのコンサート開催の意味 障がいをもつ子どもや成人は、歌やダンスが好きで音楽をよく聴いています。しかし障がいのある子どもや成人は、コンサートを集中して最後まで聴けず、多動になり離席をすることも多々あり、一般の聴衆の中では多くの困難を伴います。また喜びのためでもあるが興奮して大声を出すこともあり、途中で退場を指示されたり事前に入場を断られることも多くあります。 また最近のホールはバリアフリーになっているところも多いようですが、肢体不自由があり歩行困難がある場合、段差が難しい人がまず座席まで到着することも困難な会場形態も少なくありません。車いすの方々では、通常のコンサートホールでは座席自体車椅子対応もされていない場合もあり、劇場構造というハードの面でも彼らにとって多くの難しさ抱えることが多いです。		

事業名称	福祉、教育及び青少年育成を目的としたアンサンブル演奏活動		
団体名 (構成人数)	木更津シニアアンサンブル「アクア」(22名)	代表者	津田 望
事業の必要性と 目的	・障がい児・者を持つ保護者や家族への活動の意味 障がい児・者の保護者に目を向けても、障がいの子どもを連れてのコンサートは「子どもが騒ぎ集中して音楽が聴けない」「出ていくように言われた」などのコメントをよく聞き、コンサートホールや劇場へ行くことそのものを諦めている人も少なくありません。多くの障がいの子の保護者は、音楽を楽しむ権利すら放棄せざるを得ません。 そのようなことから、実際にその子どもや通園（所）している施設へ出向き、障がいの子ども達ばかりでなく、保護者やそのきょうだい、またその家族にも一緒に楽しんでもらえるように、レパートリーも子どもから大人まで楽しめるような演奏会開催の企画をします。 ・今年度の活動の内容と来年度の計画 2024年度は、子どものよく知っているダンス曲やサイン言語や手話の入った曲を演奏し、子どもやその職員も一緒に参加する「参加型コンサート」を行い好評を得ました。2025年度も、障がいの子どもから保護者など大人も一緒に楽しめるコンサートを計画したいと思います。 イ、高齢者施設での慰問演奏 2024年度は、高齢施設での演奏会は2回開催しました（2回目は2月下旬で計画中）。演奏時間は約1時間でしたが、利用者の方々は、職員が驚くくらいの反応が見られ、職員の方から「普段の作業やリハビリなどとは全く違う笑いや発声などがたくさん聞かれた」というコメントをたくさん頂きました。中には、涙を流して一緒に歌ったり、曲のリクエストをしたり、楽器に直接触れたいと積極的に前へ来られるなど、能動的な行動には、職員の方も楽団員もとても驚き喜びました。 ・高齢者への音楽の効用： 高齢者への音楽導入のリハビリや健康増進の有効性は世界的に認知されており、特に広い意味での音楽療法は、ADL向上や認知機能の改善、身体的・精神的な健康を取り戻すなど、多領域において有効性が高いとのエビデンスが多く出されています。高齢者施設では、日常生活動作の指導に音楽を取り入れながらの指導の方が、掛け声だけで行うリハビリより数段学習効果が高いと言われています。また静かに音楽を傾聴することにより精神的安定性を取り戻し、認知症の予防や治療にも有効であるとも言われています。通常はCDが良く使われますが、生の楽器演奏の方が何倍もの効果が得られることは実証されています。 ・高齢施設での音楽活動参加の現況 高齢者の場合も障がいの人たちと同様に、音楽を聴きにホールへ出かけていくことの困難な状況は顕著です。抱える疾病や感染症への配慮や、歩行が難しい高齢者の外出そのものに危険性が高く、リスク管理のための事前準備に膨大な時間が必要となります。かかる人的問題等々を考えると、現行の施設入所の高齢者が音楽を聴きに外出することはなかなかできていません。特にコロナ禍では更に多くのセラピーや活動自体も自粛され、当然音楽活動も少なくなり、閉ざされた高齢施設の認知症発症率も上がったと言われています。 ・来年度の活動 私たちは、今年度のいい経験を元に、できるだけ多くの施設へ出向いて高齢者に寄り添った演奏の企画を実行したと思っています。高齢者の好きな歌謡曲や昔の流行歌などを広くレパートリーに取り入れ、音楽を聴き一緒に歌えるコンサートを企画する予定です。		
審査基準： 「公益性」			

事業名称	福祉、教育及び青少年育成を目的としたアンサンブル演奏活動		
団体名 (構成人数)	木更津シニアアンサンブル「アクア」(22名)	代表者	津田 望
事業の必要性と 目的	ウ、児童養護施設でのお楽しみ演奏会 2024年度は初めて児童養護施設でのコンサートを実現しました。あまり外に音楽を聴きに行く機会がないその施設では、最初は子ども達の反応は低く警戒している様子が見られました。しかし時間と共に、自主的に前へ出てきてダンスを踊ったり、楽器紹介では実際に楽器に触れたり吹いたり、音が出ると「わー」と感嘆の声を上げるなどとても素直で明るい反応がたくさん見られ私たちも感動しました。 ・児童養護施設の現況 近年家族間の問題や劣悪な環境で生活改善が難しい家族から子どもを一時的または永続的に離し、児童養護施設へ入所する児童が急増しています。施設内では多くの子どもたちは、個室やプライバシーが保てない大集団で生活していることが多く、そのため個人の気分転換やレクリエーションも難しい状況下、施設内で子ども達はぎくしゃくした人間関係やコミュニケーションを構築していることが多いと報告されています。そのために子どもたちの多くは、精神スタビリティが保てない、恒常的に不安定な精神症状などの問題を持ちやすいという症例が挙げられています。施設のような大集団の生活では、通常多くの若者がするように、気分転換に自由に音楽を聴いたり、コンサートに外出をすることや好きな音楽に合わせて歌ったり踊ったりすることができにくい環境下の長い生活が与儀なくされているからでしょう。 ・児童養護施設でのコンサート開催の必要性 コンサート会場へ行かないという現状を踏まえて、こちらから出向いてその施設内でのコンサートを開催することは、入居児のニーズに叶ったものであると思います。会場そのものが生活の場であり、安心した環境で親しんだ職員や友人と共に音楽に触れ、みんなで楽しめるような楽曲を多くレパートリーに取り入れ、演奏を聴いたり歌ったりダンスができるような明るいコンサートを企画し、生の音楽に身近に触れ、一緒に楽しめるコンサート開催の企画をしたいと思います。 エ、小学校での教育を目的とした演奏会 2024年度は、小学校の特別支援学級への慰問演奏を行いました。支援学級には、ADHD、ASD、言語障がい、知的障害などのお子さんがいるとお聞きしていました。しかし実際コンサートでは、誰一人として離席することもなく、また飽きて飛び出す児童などもいませんでした。楽器紹介でも興味津々で、あるお子さんはベースを習っていると、楽団に入ってベースギター演奏を皆の前で披露し、子ども達や先生方も驚かせた光景がありました。 ・学校での音楽授業の現況 最近の小中学校の音楽では、生の音楽を鑑賞することがあまりないそうです。実際音楽鑑賞の時間であってもCDで行うことが通常であり、生の楽器や音楽を聴くことも触れる機会も少ないと聞きました。CDで聴く音楽は、実際の演奏の音楽とは根底から異なるものであり、本当の音楽の感動は、人が演奏する生の楽器が奏でる音楽によるものだ、という体験をしている児童生徒が非常に少ないと思います。 小学校への慰問演奏をすることで、特にコンサートに行くことが困難な特別支援学級の生徒さん、また通常学級の学童でも、CDと生音の違いを体感していただき、幼少期の大切な時に生の音の素晴らしさを実感・体験してもらいたいと思います。同時に、それぞれの楽器の音の違いやその特性を知り、実際に楽器に触ってもらうなど、将来さらに音楽に興味を持ってもらえるような企画を考えています。 オ、定期演奏会の開催（定期演奏会の開催の大切さ） これまで述べてきた慰問演奏の企画は、限られた方々への演奏です。しかし私たちはこの地域に根差し、この地域の方々のためにも、練習し鍛錬してきた曲を発表する機会を企画したいと思います。 毎年1回総結集の定期演奏会を開催し、地域の老若男女どなたにでも聴いていただけるコンサートを開催したいと考えています。地域での演奏会の意味は・・・ ・私たちが自身の励みである ・このような活動を平均70才以上シニアがおこなっていること ・現在音楽活動を希望されているシニアの方々へ参加を促す良い機会である シニアの繋がりを音楽を通して作り上げ、楽しい老後を実現できることを知っていただきたいと思います。それが高齢者の福祉へ通じ、また高齢者をもつ家族支援にもなり、地域貢献へと広がっていくのではないかと考えています。		
審査基準： 「公益性」			

事業名称	福祉、教育及び青少年育成を目的としたアンサンブル演奏活動		
団体名 (構成人数)	木更津シニアアンサンブル「アクア」(22名)	代表者	津田 望
スケジュール	① 5月：高齢者施設 ② 7月：高齢者施設 ③ 10月：児童養護施設 ④ 12月10日：障がい児施設 ⑤ 12月17日：障がい者施設 ⑥ 2月11日：第3回定期演奏会		
事業の特色	高齢者がアンサンブルをすることにより・・・ ・社会的孤立化を防ぐ ・音楽を通してコミュニケーションを深める ・楽器演奏や楽譜を読むことによる認知症の予防 ・音楽による心身の癒し効果 ・練習のために外出することによる健康維持 ・社会的繋がりを得ることで、友好関係を広げ互助の豊かさを知る 慰問演奏をすることによって・・・ ・演奏を喜んでいただけることで、生きがいになる ・これまで知らなかった環境にある子どもや人々に出会う ・演奏を通じて自己有用感をもつ		
来年度以降の 事業展開予定	地域の新たな慰問演奏先を発掘し、市内の出来るだけ多くの福祉施設や病院などにアプローチする予定です。今後は、入場料を頂く、また賛助会員を募るなどして活動資金を得ていく予定です。 ・今後の運営費確保のために、更に広く賛助会員を募る：今年度は30人以上の賛助会員登録がありました。今後更に多くの賛助会員を募る予定です。 ・来年度の活動内容の方向 今年度は活動の幅を増やすために、年間13回のコンサートを開催しました。それに叶うように曲目を増やすための練習、コンサート開催準備、編曲依頼のための人脈拡大の活動等々で、かなりの時間を費やしました。しかし来年度は、コンサート活動の幅を少し縮小し、新しい楽曲練習や技術向上のために十分に時間を使いたいと考えています。		
過去の活動実績	2024年度 5月26日：全国シニアアンサンブル連盟全国大会（市原市民会館） 7月27日：波岡縁日（波岡公民館） 8月22日：楽器と遊ぼうコンサート（葛飾シンフォニーホール、アイリスホール） 9月1日：田中玲子ユーフォニアムコンサート（南総文化会館） 10月20日：児童養護施設 野の花の家訪問演奏（馬来田） 11月20日：高齢者施設 潮の香苑訪問演奏（岩根） 11月27日：西清川公民館文化祭 12月6日：障がい者デイサービス のぞみワークショップクリスマスコンサート（真里谷） 12月11日：障がい児通園施設 のぞみ牧場学園クリスマスコンサート（真里谷） 2月11日：第2回定期演奏会（金田地域交流センター） 2月21日：八幡台公民館訪問演奏（八幡台）		

令和7年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 3

事業名称	福祉、教育及び青少年育成を目的としたアンサンブル演奏活動		
団体名 (構成人数)	木更津シニアアンサンブル「アクア」(22名)	代表者	津田 望

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		報償費	520,000	定例指導料10,000 ×40回 演奏会指揮20,000 ×6回
自己資金	550,000	会費+入会金	旅費	220,000	5,000円×40回 全シ連出席交通費 2,500円×8回
			委託費	270,000	編曲代15,000円× 18曲
			印刷製本費	20,000	チラシ、ポス ター、お知らせ、 譜面コピー代等
			通信運搬費	5,000	切手等郵送費
			消耗品費	15,000	ペン、テープ、領 収書等
合計	1,050,000		合計	1,050,000	

事業名称	「おとのわ」 多様化するニーズに対応する企画運営実施、市民が心豊かに暮らせる社会実現を目指す。		
団体名 (構成人数)	おとのわ (3名)	代表者	朝長 菜穂子
事業の内容 審査基準： 「公益性・実現性」	本事業は、市民団体「おとのわ」が地域の教育・福祉・芸術文化振興を通じて木更津市民のQOL（生活の質）を向上させる活動です。立ち上げ段階では地元資源に限定せず、外部から専門的な知識や経験を持つアーティスト、教育者、講師を招き、多様なプログラムを展開します。 具体的な事業内容は以下の通りです。 1. 教育活動 ・乳幼児～高齢者まで対象とした幅広い教育プログラム提供、生涯学習講座を実施します。 2. 芸術文化の振興 ・音楽などを中心とした多ジャンルの芸術プログラムを展開、市民に新たな芸術体験の場の提供。専門家や講師を招いて質の高い文化イベントを実施します。 3. 福祉向上活動 ・高齢者施設や福祉施設への出張プログラムを通じて、地域住民の孤立感軽減や精神的健康の向上を図ります。 ・特別支援が必要な子どもたちに寄り添える教育・芸術活動を提案します。 4. 地域人材の育成（長期目標） ・プログラムの中で市民が芸術や教育の楽しさを体感することで、将来的に芸術等の専門家や多種多様な教育者が育つ基盤を形成します。 ・外部の専門家との交流を通じて、地域活動を自立的に発展させる力を養います。		
事業の必要性と 目的 審査基準： 「公益性」	1. 必要性 ・教育の多様化への対応：木更津市では、乳幼児から高齢者までの幅広い年齢層が、興味やニーズに合った学びの場を必要としています。 ・芸術文化体験の不足：地元資源の限界等により、特に芸術や文化活動の幅が狭まっている現状があります。これを補うため、外部からの支援が必要です。 ・福祉の充実：高齢化や孤立化が進む中で、地域住民の心の健康を支える活動が求められています。 2. 目的 ・地元の市民が高品質な教育・芸術文化活動を体験することで、心豊かな暮らし・地域社会を実現します。 ・地域の課題を解決しながら、市民が主体的に活動に参加する場を提供します。 ・将来的に地元の芸術家や教育者を育成し、地域社会の自立的発展を促進します。		

事業名称	「おとのわ」 多様化するニーズに対応する企画運営実施、市民が心豊かに暮らせる社会実現を目指す。		
団体名 (構成人数)	おとのわ (3名)	代表者	朝長 菜穂子
スケジュール 審査基準： 「実現性」	令和7年 4月 各活動準備・告知活動開始 5月 ワークショップ： 高齢者施設や福祉施設で高齢者対象「音楽で認知予防」ワークショップ開始 公民館等で幼児親子対象「お子様の非認知能力を高める」ワークショップ開始 公民館・オンラインで小学生・中学生対象「動画制作・編集」ワークショップ開始 6月 一般教養・講座： 公民館・オンライン等で学生・成人対象 「誰にでもわかる著作権について」 音楽鑑賞およびワークショップ： 高齢者施設・フリースクール・公民館等で学生・一般成人対象 「生演奏音楽鑑賞会」（吹奏楽・弦楽アンサンブル・ギター・ピアノなど多様なラインアップ）や「参加型音楽体験会」実施 7-8月 ワークショップ： 公民館・オンラインで小学生・中学生対象： 「楽器をつくって、演奏しよう」自由研究ワークショップ実施 「プログラミング的思考育成ワークショップ」「音楽制作・作曲ワークショップ」 講座：一般市民（特に20代～40代）対象 「市民活動参画応援セミナー」 9月 ワークショップ： 公民館等で高齢者対象「60歳からの初心者ピアノ」ワークショップ 特別支援対象児童・生徒への「音楽鑑賞・ワークショップ」 10月 音楽鑑賞およびワークショップ： 高齢者施設・フリースクール・木更津市民会館・公民館等各施設で 「芸術の秋 音楽コンサート」、「楽器体験・ワークショップ」 12月 芸術（音楽・映画等）鑑賞： 木更津市民会館・公民館等で親子・一般（成人等）対象「クリスマスコンサート」 親子・成人対象 「映画上映会×音楽生演奏」 令和8年1月 グローバル教育： 公民館等で親子・小学生・中学生対象 「外国語に親しもう！ワークショップ」 2月 SDGs教育： 木更津市民会館・公民館等で 小学生対象 絵本「メロディ」（国語教科書掲載） を題材とした よみきかせ「SDGs&音楽ワークショップ」		

事業名称	「おとのわ」 多様化するニーズに対応する企画運営実施、市民が心豊かに暮らせる社会実現を目指す。		
団体名 (構成人数)	おとのわ (3名)	代表者	朝長 菜穂子
事業の特色 審査基準： 「独創性」	外部リソースを活用したプログラム ・地元資源のみならず、木更津市外の教育者、講師による高品質なワークショップやイベントを提供。 ・現在木更津市内ではなかなか体験できない斬新なプログラムを実施し、市民に新たな刺激を与えます。 全世代対応型の柔軟なプログラム ・幼児・親子向けの創造的な体験プログラムから高齢者向けの生涯学習講座まで、多様なニーズに応える内容を展開。 ・世代間の交流を促進し、地域全体の絆を深めます。 持続可能な地域発展の基盤作り ・外部リソースを活用することで、市民が本事業を通じて新しい視点やスキルを習得し、地域での活動を活性化させる。 ・長期的には、地元の人材を育て、地域資源を活用した持続可能な活動に移行します。 福祉と芸術の融合 ・音楽などの芸術を通じて孤立感や不安を軽減し、心の健康を促進するプログラムを展開。 ・特別支援が必要な市民への包括的なケアを実現します。 柔軟な参加形態と広報戦略 ・会員登録不要で、単発で気軽に参加できる仕組みを採用。 ・SNSや地域メディアを活用して広報し、より多くの市民にアプローチします。		

事業名称	「おとのわ」 多様化するニーズに対応する企画運営実施、市民が心豊かに暮らせる社会実現を目指す。		
団体名 (構成人数)	おとのわ (3名)	代表者	朝長 菜穂子
来年度以降の 事業展開予定	1. 2年目（来年度）：地域との結びつきを強化する基盤づくり ○新規プログラムの導入 ・「教育機関・公的機関連携プログラム」：授業・課外活動等の選択肢の一つとして音楽や多様な教育要素取り入れたプログラムやイベントを共同展開します。 ○市民主体のイベント開催 ・ワークショップ参加者や地域住民の中から市民リーダーを育成し、主体的にイベントを企画・運営する場を提供します。 2. 3年目：地元人材の発掘と育成 ○若者世代を対象とした市民活動促進育成プログラム ・将来的に地域社会を支える担い手として、若者が地域活動に関心をもってもらうための講義やワークショップを展開します。 ○アーティスト・教育者ネットワークの形成 ・地域内外のアーティストや教育者をつなげる交流イベントを実施し、木更津市独自の芸術・教育ネットワークを構築します。 ○継続プログラムの確立 ・人気の高かったワークショップやイベントを定例開催し、市民活動を安定化させます。 3. 4年目：地域密着型活動への移行 ○活動の本格化 ・特に若い世代が主体となり、独自のワークショップやイベントを展開。地域住民による「地元発信型」の活動へと移行します。 ○持続可能な運営モデルの確立 ・市民リーダーや地域団体による運営に移行することで、事業の自立性を高めます。 ・活動の資金面では、木更津市の協働事業支援に頼らず、企業スポンサーやクラウドファンディング等も活用した自立型運営体制を整えます。 4. 5年目以降：モデルケースとしての発展 ○木更津市発の事例を全国展開 ・木更津市の活動をモデルケースとし、他地域へのノウハウ提供や共同プロジェクトを展開。 ○地域ブランドの創出 ・木更津市の芸術・教育活動を地域ブランドとして確立し、観光や移住促進などの効果を目指します。 ○国際交流プログラムの開始 ・国外からのアーティストや教育者を招いたプログラムを導入し、地域住民が国際的な視野を広げる機会を提供します。		
過去の活動実績	なし		

審査基準：
「発展性・自立性」

事業名称	「おとのわ」多様化するニーズに対応する企画運営実施、市民が心豊かに暮らせる社会実現を目指す。		
団体名 (構成人数)	おとのわ (3名)	代表者	朝長 菜穂子

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり活動支援金	500,000		報償費	500,000	ワークショップ・イベント・講座等謝礼
ワークショップイベント参加費	300,000	ワークショップ・イベント・講座収入	旅費	50,000	講師旅費交通費
			印刷製本費	50,000	告知チラシ作成・印刷等
			消耗品費	20,000	活動時事務消耗品等
			通信運搬費	50,000	切手代・楽器・道具運送代 等
			保険料	30,000	ボランティア保険等
			使用料・賃借料	100,000	会場費・楽器レンタル料等
合計	800,000		合計	800,000	

事業名称	N e k o t t o オトナ女子×農、食、仲間づくり		
団体名 (構成人数)	N e k o t t o オトナ女子クラブ(7名)	代表者	前田 亜矢子
事業の内容	これまで育ってきた環境も経歴も年齢も異なるオトナ女子が木更津のカフェで出会い、それぞれの思いを共有し、楽しみながらチャレンジしていこうと発足したグループです。 (1) カフェでの交流会を通じて仲間づくり。 (2) 中郷地区の農地を活用し、循環型農業で米・野菜の栽培、収穫する活動。 (3) 中郷小学校の学校給食に納品。 (4) ワークショップを開催し、木更津市有機米の広報活動、米・米粉のレシピ提案、試食会などの活動。 (5) 農業体験+キャンプイベント開催。		
事業の必要性と目的	オトナ女子×農と食、仲間づくり ＜オトナ女子の仲間づくり＞ 年齢を重ねると仲間ができづらい、これからも何かにチャレンジしたい、誰かと思いを共有したい、悩みを聞いてほしいなど、様々な思いを持っていても一歩が踏み出せない人が大勢います。そのような大人の女性のための情報交換、仲間づくりのプラットフォーム的場所が必要であると考えます。 ＜地域の有機資材を用いた安心安全な地元農作物を学校給食に提供する＞ 木更津市は学校給食に地域で生産された食材を優先的に使用しており、地産地消・食育に取り組んでいます。中郷地区は農業従事者が多い地域ですが、地元の食材の提供はまだ少ない状況です。小規模の小学校だからこその特色ある取り組みもできており、生産者と栄養士、学校職員、行政が顔の見える関係で協働し、地域ならではの学校給食や農業体験など魅力ある食育活動ができると考えます。 ＜木更津産の有機米の消費拡大につなげる＞ 行政と農家の方の協働の元、近年中に学校給食がほぼ100%有機米となる予定ですが、まだ一般市民には馴染みがあるとは言えません。健康的で豊かな市民生活と農業の持続的な発展のため、木更津市の取り組みを周知し、有機米の米粉を使った簡単なレシピを紹介、販売することで消費拡大につなげていきたいと考えています。 ＜農地利用＞ 中郷地区は市街化調整区域であり、広大な農地が広がる自然豊かな地域です。しかし、少子高齢化率は木更津市内で最も高く、農業を継続できない家庭が多くなっています。今後も耕作放棄地が増えることが懸念されており、私たちのような「農家」ではない団体が「目的」をもって農地を活用することで、少しでも農地を含む地域の環境保全に努めることができると考えます。		
スケジュール	① カフェにて交流会を開催し、思いの共有・仲間づくりの場を提供します。 ② 野菜栽培+学校給食に納品 ・ジャガイモ→9月植え付け及び播種→12月収穫→1月から納品開始 ・ニンジン→7月播種→11月収穫、納品開始 ・サツマイモ→5月植え付け→10～11月収穫→11月から納品開始 ③ 米粉、有機米を使用したお菓子などのワークショップを開催します。 1) 参加型ワークショップ 2回/年→外部講師委託 2) カフェでの交流会の際に、お菓子などの試食+レシピ配布+木更津の有機米の取り組みを周知する活動を行います。 3回/年 ④ 農業体験、キャンプイベント 収穫時 6月と11月予定 ⑤ 随時肥料作り→コンポスト利用 ⑥ 畑整備→12～1月 剪定、草刈り随時		

事業名称	N e k o t t o オトナ女子×農、食、仲間づくり		
団体名 (構成人数)	N e k o t t o オトナ女子クラブ(7名)	代表者	前田 亜矢子
事業の特色 審査基準： 「独創性」	<仲間づくり> いくつになってもいきいきと人生を楽しみ、チャレンジしていくことを諦めないオトナの女性の思いを共有する仲間づくりを行います。 <地産地消> 「地元野菜」を「地元」の小学校に提供します。 <有機米の消費拡大> 木更津産有機米の取り組みの広報や、自宅でも簡単に作れるお米や米粉のレシピを考案、紹介します。 <地域循環型農業の実践> 地域の有機資材である米ぬか、落ち葉、もみ殻、自宅から出た野菜の生ごみからの肥料を軸に使用し、農薬は極力使用せず栽培します。 <地域の環境保全> 農作業時、周囲の草刈りや整備も行うため、地域景観にも貢献します。 <食育活動> 子供たちと顔が見える関係で、野菜や栽培過程など話すことができます。		
来年度以降の 事業展開予定 審査基準： 「発展性・自立性」	引き続き 1) カフェでの交流会などを通じて仲間づくり 2) 中郷地区の畑にて野菜を栽培し中郷小学校に納品 ・子供たちに野菜のこと、地域の有機肥料のことなど説明する機会を作り、食育活動を行う。 3) 米粉、有機米の消費拡大に関して ・お菓子、料理などのワークショップを開催 ・SNSで発信 4) 農業体験 野菜→植え付け、収穫体験 米→田植え、稲刈り体験 農村キャンプを行い、野菜を収穫し料理してもらう。		
過去の活動実績	① 中郷小学校に野菜を納品 2024年度 6～10月ジャガイモ227.8kg 11～2月サツマイモ155kg 10月 小学校を訪問し子供たちと交流した ② 野菜の収穫体験 6月5名 11月4名 ③ 米粉のお菓子など製作、イベントで米粉のお菓子を配布 ④ 交流会開催 2回		

令和7年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 5

事業名称	N e k o t t oオトナ女子×農、食、仲間づくり				
団体名 (構成人数)	N e k o t t oオトナ女子クラブ(7名)	代表者	前田 亜矢子		

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		消耗品費	100,000	マルチ、マルチ止め、ダンポール、コピー用紙、文房具等
学校給食納品代	130,000		備品購入費	285,000	トンネルビニール、発電機、ソーラーパネル、水タンク等
交流会参加費	30,000	1,000円×10人×3回	燃料費	7,000	草刈り機、耕運機、運搬車費用
ワークショップ参加費	60,000	1,500円×20人×2回	原材料費	80,000	米粉、米料理、肥料、種苗代
自己資金	32,000		小屋製作費	200,000	単管、木材、波板、雨どい等
			報酬代	80,000	外部講師3万円、技術講習代5万円
合計	752,000		合計	752,000	

事業名称	キサラヅ・サーカス・エクスペリエンス		
団体名 (構成人数)	キサラヅ・サーカス実行委員会 (3名)	代表者	杉本 峻
事業の内容 審査基準： 「公益性・実現性」	2025年10月27日(月)～2025年11月9日(日)にかけてシルク・ドゥ・ソレイユ出演者等の国内外の一流アーティストを木更津に招聘し、サーカス公演、及びムーブメント（サーカスやヨガ等の健康体操等の総称）のクラスを開催します。 1) 「ムーブメント体験会」 Kisarazu Sports Villageを会場に特別講師陣による木更津市民向けのムーブメントのクラスやサーカスショーの開催 子どもの参加費は先着数10名無料とし、通常価格1,000円程度と参加しやすい価格帯を想定します。 2) 「教育機関での出張授業」 木更津市内の小・中・高等学校施設等での杉本峻や他演者による出張授業の実施。内容は、デモンストレーション、運動体験、「夢を叶える」等がテーマの講義		
事業の必要性と 目的 審査基準： 「公益性」	◆ 活動の背景について 申請者の杉本は木更津市出身で、23歳からプロのサーカス演者として海外で10年以上活動した後、日本での拠点として木更津市を選定しました。 木更津市は、東京および両国際空港に近く、集客しやすい立地に加え、自然環境にも恵まれています。これらの利点を活かし、2023年よりサーカスやムーブメントの体験イベントを開催しています。 ◆ 我々が取り組む課題 - 世界レベルのエンタメ不足 木更津市では移住者やファミリー層が増加していますが、国際的な芸術・エンターテインメントに触れる機会は依然少ないのが現状です。 - 地方行政のリソース不足 地方行政が単独で海外アーティストを招聘し、公演・体験会を実施することは、予算・人員面で困難と想定されます。 - チケットの高額化 企業主導の公演はチケットが高額になり、多くの市民にとって参加が難しくなっています。 - 運動不足・体力低下 日本全体で運動不足が問題視される中、競技スポーツ以外で「楽しく」運動する機会は限られています。 - コロナ後の交流機会の創出 コロナ禍で他者との交流機会が減少した後の今こそ「ふれあい」の機会となる交流の場の提供が求められています。 本事業は、これらの課題に対応し、無料または低価格で世界レベルの芸術・運動体験を市民に提供することを目的としています。 ◆ 本事業が提案するサーカスの価値 サーカスは言語を問わず楽しめるエンターテインメントです。我々は、市民が気軽にサーカスを鑑賞し、演者と触れ合う機会を提供することで、記憶に残る体験を創出し、教育的価値や地域活性化につなげます。 また、サーカスやムーブメントの体験を通じ、運動の楽しさを実感し、運動不足解消や苦手意識の克服を促します。 ◆ 木更津市とサーカスの親和性 人口増加に伴い、家族向けエンターテインメントの需要が高まっています。また、商業・スポーツ施設が充実し、サーカスを開催しやすい環境が整っています。 さらに、国際的なイメージの向上により、海外アーティストとの交流の場としての適性も高まっています。 これらの要素から、木更津市とサーカス事業は親和性が高く、市民の暮らしを豊かにする新たな価値を提供できると考えます。 本事業を通じ、以下の価値を提供します。 - 国際交流の促進 - エンターテインメントの提供 - 運動への苦手意識の解消		

事業名称	キサラヅ・サーカス・エクスペリエンス		
団体名 (構成人数)	キサラヅ・サーカス実行委員会 (3名)	代表者	杉本 峻
スケジュール 審査基準： 「実現性」	2025年10月27日(月)～2025年11月7日(金) 「教育機関での出張授業」対象：木更津市内の小中学生 場所：各学校の体育館にて 時間：授業1コマまたは2コマ 2025年11月8日(土)9日(日) 「ムーブメント体験会」対象：木更津市内の小中学生、保護者 場所：Kisarazu Sports Villageにて		
事業の特色 審査基準： 「独創性」	・シルク・ドゥ・ソレイユ等に出演経験などがある一流のアーティストを独自のルートからキャスティングを行える事 ・日本においてまだ馴染みの少ないサーカスに手軽に触れる企画を行える事 ・国際交流や「本物」の鑑賞機会にて教育的価値を創出できる事 ・サーカスやムーブメントという名のもとにヨガ、ダンス等多様なコンテンツの提供が行える事		
来年度以降の 事業展開予定	・サーカス事業の拡大（市内ホールや舞台施設にてサーカスの公演） ・更なる体験会や上級者向けクラスの開催（市内運動施設、スタジオ、アウトドア施設にて） ・福祉施設でのクラス実施（リズム体操など） ・日本初となるムーブメントフェスティバルの開催（国内外の講師による多様なクラスが1ヶ所で受けられる運動と芸術の祭典）		
過去の活動実績	2024年の「キサラヅ・ムーブメント・ウィーク」では木更津市行事共催の採択を賜りイベントは成功に終わりました。主な成果は以下です。 キサラヅ・ムーブメント・キャンプ 2024年10月12日, 13日 国内外の一流講師のヨガ、ダンス、空手等の様々な運動のレッスンが受けられる『キサラヅ・ムーブメント・キャンプ』と『ムーブメント体験会』を開催し日本全国から約50名が参加しました。講師にはシルク・ドゥ・ソレイユアーティストや空手元日本代表選手等が参加しました。【ウェブサイト】https://and-move.com/kmc/ キサラヅ・サーカス・デー 2024年10月27日 海外からシルク・ドゥ・ソレイユ歴代最年少アーティストのボバ・ペストフ氏を招聘しイオンモール木更津開店10周年イベントにて観客800人に向けてショー、大人こどもへの体験会、講演を行いました。 小中学校での出張授業 2024年9～12月 木更津市内の小中学校合計7校にて出張授業を行いました。同時に700人の児童に向けて講師1名での指導も行いました。 木更津市初任者教職員研修 2024年7月26日 令和6年の研修にて特別講義を行いました。		

事業名称	キサラヅ・サーカス・エクスペリエンス		
団体名 (構成人数)	キサラヅ・サーカス実行委員会(3名)	代表者	杉本 峻

収支予算書

収入項目	金額(円)	備考	支出項目	金額(円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		講師費	250,000	1名 50,000円 5名分
チケット売上 子ども	100,000	100名(1名 1,000 円)	宿泊費(ムーブメ ント体験会前夜)	50,000	1名 10,000円 5名分
チケット売上 大人	100,000	50名(1名 2,000 円)	旅費	350,000	飛行機・電車 200,000円 宿泊15泊分 150,000円
グッズ販売 T シャツ15枚	60,000	1枚 4,000円	チラシ制作外注費	80,000	
			Tシャツ製作費	30,000	
合計	760,000		合計	760,000	

事業名称	和太鼓と篠笛による出前公演～お年寄りと子供達に元気と笑顔を届ける～		
団体名 (構成人数)	響の杜企画(7名)	代表者	鈴木 淳一
事業の内容	プロの和太鼓奏者と篠笛奏者で市内各地の福祉施設や保育園に出向きコンサートの開催 〈実施予定〉 ●さくらんぼ保育園 (6月) ●中郷記念館 (7月) ●アビタシオン木更津 (8月) ●中郷保育園 (9月) ●みやまのさくら保育園 (10月) ●なのはな保育園 (11月) ●万石の家 (12月)		
事業の必要性と目的	地域高齢化に伴い福祉施設に通う方や入所する方が増えるなか施設では様々な行事が行われております。しかし予算の関係で開催される内容は限られており、プロの演奏家を招くイベントなどは開催が厳しいのが現状です。プロの音楽を実際に聴いて体で感じる事で明日からの活力になればと考えております。以前何度か施設を慰問させていただきました時も利用者様から直接『元気が出た』とか『涙が出てきた』などお声をいただきました。生の音を聴く事で利用者様の生活の活力につながると感じていいです。また、保育園でも同様、プロの音楽に触れる機会が少ないのが現状です。また、保育園や幼稚園から大学までの学校生活の中で西洋音楽に触れる事が多い日本ですが日本の伝統文化に触れる機会が少ないので、これを機に実際観ていただいて日本の文化を肌で感じる事で興味を持っていただき将来の後継者に繋がればと思っております。		
スケジュール	採択決定後は各施設と連絡を取り合い、まず実施日を決定します。 福祉施設では利用者様対象に、保育園などでは園児を対象に各施設に楽器を持ち込んでコンサートを開催いたします。		
事業の特色	普段地域のイベント等に指導チーム等で積極的に参加しておりますが、演奏する楽曲は日本各地の伝統音楽を舞台用にアレンジし取り入れたり、オリジナル楽曲まで多種多様。太鼓演奏も大小様々な大きさの太鼓をドラムセットのように並べ、太鼓独自の音階を作って飽きさせないリズム作りをしております。大きな舞台になると太鼓以外にジャンルの違うものを取り入れ、歴史上の人物などをモチーフに舞台を作り、太鼓を観ながら日本の歴史を感じるような舞台をお送りする事もできます。		
来年度以降の事業展開予定	継続して演奏活動を続けていけるよう弊社で努力していきたいと思っております。実際、予算が減ることでプロの方をお呼びすることは難しいかもしれませんが、また観たいというお声があれば市内、市外で展開している和太鼓教室や指導グループを中心に施設の慰問を継続していけたらと考えております。		
過去の活動実績	【イベント】 木更津花火大会、木更津イオン、木更津舞尊、アクア将棋大会、マザー牧場、ワールド千葉、観音まつり、にっぽん丸お出迎え演奏、高柳さくらまつり、人形感謝祭(高蔵寺)、清川納涼祭、若木町納涼祭、岩根西公民館文化祭、新御堂寺、長楽寺、千葉アクアラインマラソン沿道応援演奏、うまくだの里、ロマンの森納涼祭 【学校関係】 鎌足小学校、真舟小学校、木更津第二小学校、高柳小学校、岩根小学校、畑沢小学校、金田小学校、清川中学校、鎌足中学校、岩根西中学校、富来田中学校、中郷中学校、拓大紅陵高校		

事業名称	和太鼓と篠笛による出前公演～お年寄りと子供達に元気と笑顔を届ける～		
団体名 (構成人数)	響の杜企画(7名)	代表者	鈴木 淳一

収支予算書

収入項目	金額(円)	備考	支出項目	金額(円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		報償費	700,000	外部講師謝礼(10万円×7回公演)
自己資金	257,000		旅費	25,000	外部講師交通費
			賃借料	10,000	リハーサル場所代
			修繕費	22,000	楽器メンテナンス代
合計	757,000		合計	757,000	

事業名称	子育て世代が繋がる各種イベント出店および出店にむけた準備		
団体名 (構成人数)	こどもかいしゃ(5名)	代表者	小松崎 奈美
事業の内容 審査基準： 「公益性・実現性」	子どもたちが当団体の畑（牛袋）で年間を通して野菜を栽培する。収穫した野菜や野菜を加工したもの(フライドポテトなど)をマルシェなどのイベント（市内のオーガニックフェスティバルなど）で販売する。 出店の内容や計画については、子どもと一緒に考え、子どもの特性などに応じて役割を決定し、進めていく。		
事業の必要性と目的 審査基準： 「公益性」	① 子育て中の親子の居場所を作りたい 子育て支援センターから足が遠のいてしまうような土地と人に不慣れな移住者、コロナ禍が原因で気づいたら遊べるお友達がいない親子、我が子の発達特性に悩む親等、様々な理由で孤立する親子の受け皿となり、居場所を確保する。 ② 子どもの自己肯定感を高めたい 子どもが様々な経験していくなかで、自他ともに「できた」という実感を積み重ね、自己肯定感を高めたい。		
スケジュール 審査基準： 「実現性」	4月～各野菜の栽培開始（夏野菜等） 5月末 ジャガイモ収穫 6月～各野菜の収穫や加工など （トウモロコシの皮などでコースターを作成するなど） カブトムシの世話（幼虫期の分を土壌改良剤として扱っている） 11月 オーガニックフェスティバルへの出店 こどもまつりへの出店 ※いずれの回についても、親子（年齢を問わない）を対象とし、広く周知することにより、誰でも気軽に参加できるようにする。		
事業の特色 審査基準： 「独創性」	①子どもが主役 当事業については、親子の居場所作りに加え、「子どもが主役」という点が一番の特徴といえる。もちろん大人のサポートは必要だが、出店計画をすすめるにあたって、自ら考え、仲間と意見を交換していく。 ②子どものありのままを認められる場所 例えば、多少気分の乗らない子どもがいるとしたら、その気持ちを尊重してただその場に居るということを認めている。学校などの集団生活が馴染めない子どもなどに積極的に声をかけている側面もある。		
来年度以降の事業展開予定 審査基準： 「発展性・自立性」	本年度の当事業を終えた後には、当団体の活動および理念などが、多くの方に認知されている状況が予想される。活動する人数が増えれば、各行事での参加費の徴収が増えるため、苗や種等の必要経費はその部分で補うことができると考えられる。仮に、参加費の徴収が増えなかったとしても、本年度と同様にマルシェへの出店も行えば、売り上げを事業の運営費用に回していくことが出来ると考えている。 また、当事業の魅力を感じた小学校中学年以上の参加者が増えれば、ますます活発になると考えている。		
過去の活動実績	・令和6年11月 こどもまつりにおいて「ミサンガ」を出店 お客さんにミサンガを編んでもらうワークショップと完成品の販売の二部制にて出店。出店に参加する子どもの特性に合わせて、売り子と講師に役割を分けた。子どもの活躍のおかげで、完売した。 (売上17,300円)		

令和7年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 8

事業名称	子育て世代が繋がる各種イベント出店および出店にむけた準備		
団体名 (構成人数)	こどもかいしゃ(5名)	代表者	小松崎 奈美

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		消耗品費	15,000	支柱、防虫ネット等
参加費	72,000	月3回(36日)	備品購入費	589,000	フライヤー、机、テント、物置、鍋、耕運機、スケール、コンテナ、噴霧器、エンジンポンプ等
売上金	228,000		原材料費	150,000	種、苗、肥料、油、食品等
			支払手数料	16,000	営業許可
			印刷製本費	30,000	ポスター、チラシ印刷
合計	800,000		合計	800,000	

事業名称	コミュニティカフェによる人と人の居場所づくり事業 ～子ども食堂や高齢者の食と図書室の開設～		
団体名 (構成人数)	NP0法人里のめぐみ(10名)	代表者	金井 珠美
事業の内容	・市内大久保地区で民家を改修した食堂を利用して、近隣住民を中心とした木更津市民を対象にコミュニティカフェを実施する。 ・同コミュニティカフェで月に1回、子ども食堂を開催し、大人も子供も参加でき、「みんなで食べるとおいしいね」を理念に楽しく過ごせる居場所を提供する。 ・空いている2室を利用し図書室を作り、子ども食堂やワークショップ時に絵本の読み聞かせや紙芝居を開催する。古本の絵本や児童書、図鑑等の寄付を募って蔵書を増やし、親子で利用できる書庫や読書室を作る。 ・講習会や講演会、うたカフェ、健康体操、ワークショップなどを主催し、新しいコミュニティや居場所を提供する。 ・食を通じて、いつでも立ち寄り、居心地の良い空間を作ることにより、子育ての悩みや高齢者の見守りなど居場所をつくる。また、共通の悩みや楽しみをつなげていくことにより地域のネットワークを広げていく場を提供する。 ・できるだけ家庭で作るような総菜が多い宅配弁当サービスの実施。 ・SDGsの視点で事業を展開し、17のテーマのうち該当するターゲットに近づけるように利用者とともに理解を広げる。		
審査基準： 「公益性・実現性」			
事業の必要性と 目的	(必要性) ・波岡地区（八幡台から畑沢）は、高齢化世帯と若年層世帯の2極化があり、旧ニュータウンは市内でも高齢化率が高く、羽鳥野地区等の若年層世帯を中心にした八幡台小学校や真舟小学校は児童数も多い。これらは、高齢化による孤立やひとり親家族などの子どもの孤食につながる可能性が高く新旧のコミュニケーションを図ることも必要である。 ・これらを解決するために、コミュニティカフェ事業を行い、地域の活性化に結び付けていく必要がある。 (目的) ・最近の若者の犯罪を聞くたびに、他人に対する思いや物事への想像力の無さを痛く感じます。私たちは、小さい頃より人との関係やいろいろな思いを経験する中で、「生の人の声」で話しかける本の読み聞かせや紙芝居は、共感や豊かな想像力を育むと考えます。新規開設した図書室で、児童書や図鑑などの本と触れ合い、絵本の読み聞かせや紙芝居を開催することで夢を上げたい。 ・高齢者や子育て世代も、コミュニティカフェを利用したイベント等に参加することにより、物事に関心を持ち、孤立の解消や健康で豊かな気持ち生まれ、新しいつながりができる。 ・一人暮らしや高齢者世帯、子育て世代の小さな困りごとの相談や解決につながる場の提供（他団体への紹介など）。 ・コミュニティカフェめぐみ食堂を目的に立ち寄ることにより、元気に暮らすことができる。例えば、 ・散歩のついでにふらっと立ち寄っておしゃべりをする。 ・話を聞く。雑談をする。一緒にお茶を飲む。ご飯を食べる。 ・話すことで暮らしの知恵などの情報交換ができる。 ・若い人にも子育ての知恵や工夫、悩みの相談や解決の一助になる。 ・各世代間を越えて、交流の場として様々な効果が表れる。 ・SDGs（国連が呼びかけて環境問題、貧困、ジェンダー、食糧問題など世界が抱えている問題解決を提案）を身近に感じてもらえる企画（例えば、料理、遊びを通して感じ考える）。 ・子どもの居場所として、カフェで多様な世代と交流することで健全な成長の一助となり、見守りができる場となる。		
審査基準： 「公益性」			

事業名称	コミュニティカフェによる人と人の居場所づくり事業 ～子ども食堂や高齢者の食と図書室の開設～		
団体名 (構成人数)	NP0法人里のめぐみ(10名)	代表者	金井 珠美
スケジュール	4月 スタッフの検便、保険加入 ・絵本や児童書、図鑑を所蔵した図書室をオープンし親子等に利用してもらう。 ・毎月第2火曜日 ちいき食堂・子ども食堂開催(計12回) ・子ども食堂開催時には、絵本の読み聞かせや紙芝居を実施する。 ・毎月講習会、講演会、うたカフェ、ワークショップ等のテーマを持ったイベントを開催し、地域の居場所づくりを開催する(計12回) ・コミュニティカフェ めぐみ食堂開催(週3回) ・できるだけ家庭で作るような総菜が多い宅配弁当サービスの実施(週4回)。		
事業の特色	・NPO法人里のめぐみは、令和4年10月に千葉県により承認された団体です。会員の多くは、子ども食堂の運営経験者で、「木更津波岡こども食堂」で開設から8年、「子ども食堂馬来田がらす」は開設から約3年の経験をしている。また、会員には、調理師、管理栄養士、食生活改善委員、介護施設の運営に携わるなど多様な人材がおり、各種相談にも気軽に対応している。 ・こども食堂は、「ちいき食堂」を目指し、「みんなで食べるとおいしいね」を理念に、誰でも参加でき子どもに限らず年配や子育て中の方などみんなで会食し歓談する。また、地元産野菜を使ったメニューを考え、子ども食堂を食育の場にする。 ・読み聞かせや紙芝居は、子どもの心を豊かに育て共感の世界が広がり、楽しみながら豊かな想像力をはぐくむ。また、絵本や児童書、図鑑などもテレビやネットでは得られない想像力や未知の世界を知ることができる。人生をスタートしたばかりの子どもたちは、夢を持つとともに親子にとっては大切な時間となる。開設する図書室の役割も大きい。 ・周辺にはカフェのような場所がなく、気楽に立ち寄る場所もないので、「おばあちゃんの家に帰ってきたような」雰囲気を作り、ランチやドリンクを提供する(みんなの茶の間)。「おいしいご飯を食べているときに怒る人はいない」をコンセプトに気軽に立ち寄る場。 ・一緒に食べることで新たなコミュニティが生まれ、共通の話題ができる交流の場となり、話し合ったことを実現していける場所。月に1度テーマのある会合、ワークショップなど開催する。 ・食堂は、保健所の営業許可を受けており、万一に備え利用者は千葉県子ども食堂保険に加入し、スタッフは社会福祉協議会のボランティア活動保険に加入している。また、衛生管理は、検便を行い、エプロン、バンダナ、マスク等を着用し、手洗いなどを実施している。 ・できるだけ家庭で作るような総菜が多い宅配弁当サービスの実施。 ・SDGsの視点で事業を考える(例えば、不要になった子供服の持ち寄りのリユース。野菜くずの畑での肥料化など)。		
来年度以降の事業展開予定	・図書室の充実、蔵書の質・量の拡充 ・利用者の希望するテーマに沿った講演、講習の実施 ・利用者のニーズに合わせたメニューの開発 ・レンタルスペースの提供 ・朝の子ども食堂の開催 ・宅配弁当サービスの実施と規模の拡充 ・困りごとの相談、解消		
過去の活動実績	・令和5、6年度は、木更津市協働のまちづくり活動支援金を受けて、民家を改修しコミュニティカフェをオープンした。開店日は、毎週月、火、木曜日の11時～16時。予約の場合は、前記以外でも開店した。 ・イベントは、「うたカフェ」「健康体操」6回、「糰カフェ」2回、「太巻き寿司(祭り寿司)講習会」、「防災教室(バッククッキング料理)」の講習・講演などを行った。各講習・講演会参加者は各10名程度である。参加者の感想は、好評で再度開催して欲しいなどの要望が多くあり、「うたカフェ」「健康体操」「糰カフェ」などは実施している。 ・毎月第2火曜日に子ども食堂を開催した。参加者は、各回20～30名、スタッフは、8名程度。子どもと大人の割合は半々。 ・現在お弁当の宅配は、需要が多いが配達時間や人員の制約から1回の提供数は3～15個程度である。 ・読書会やグループの打ち合わせ会などに予約利用している。		

令和7年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 9

事業名称	コミュニティカフェによる人と人の居場所づくり事業 ～子ども食堂や高齢者の食と図書室の開設～			
団体名 (構成人数)	NP0法人里のめぐみ(10名)	代表者	金井 珠美	

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		原材料費	355,000	・子ども食堂(食材20万円、調味料2万円) ・本棚用木材等原材料費10万円、ペンキ2万円 ・取付金具部品15,000円
子ども食堂参加料	50,000	子ども100円、大人300円	備品購入費	110,000	プロジェクター8万円 スクリーン3万円
イベント参加料	60,000	500円×10人/回×12回	書籍類購入費	98,000	紙芝居4万円(10巻) 絵本、児童書、図鑑58,000円
自己資金	140,000		報償費	36,000	講師謝礼(3,000円/回×12回)
			旅費	12,000	講師交通費(1,000円/回×12回)
			消耗品費	100,000	・調理用具、食器6万円 ・キッチンペーパー、ラップ、ごみ袋等台所用品4万円
			印刷製本費	15,000	チラシ印刷1万円 資料印刷5,000円
			保険料	15,000	子ども食堂保険1万円 社協活動保険5,000円
			検査費	9,000	検便(900円×10人)
合計	750,000		合計	750,000	

事業名称	笑顔カフェ		
団体名 (構成人数)	笑顔カフェ (4名)	代表者	上原 学
事業の内容	笑顔カフェは、認知症カフェとして活動しています。 認知症の方とご家族、また地域の方も一緒にくつろぎながらリフレッシュできる場として、私たちは現在2ヶ所で『笑顔カフェ』を開催しています。①in老人福祉センターは、毎月第2(水)13:30~15:00開催で令和3年5月からはじめて今年5月で満4年を迎えます。 ②ウエルシアin木更津ぎおん店は、毎月第4(木)10:00~11:30開催で令和2年6月からはじめ今年6月で満5年を迎えます。 笑顔カフェへ参加する方は、定着しておりますが、新規の方にも来て頂けるようにPR活動も随時行っています。笑顔カフェの開催内容は、老人福祉センターでは和室をお借りし、ウエルシア木更津ぎおん店ではお店のウエルカフェコーナーを利用させて頂き、300円の会費でお菓子とドリンクを用意して、それを頂きながら色々な話や参加者同士の交流を行っています。また、コロナ禍におしゃべりがご法度だったこともあり作品づくりを楽しんでいた名残があり、1ヶ月おきにメインを作品づくりに変えて楽しんでいます。 専門職(木更津市北部地域包括支援センターの全面的なバックアップあり)が認知症という病気のことや介護の仕方などの相談にも対応しています。 ②令和元年度こちらの助成金を頂き、初めて開催したイベント的な『居酒屋in笑顔カフェ』は、相談ができる、リフレッシュできる、は上記2ヶ所と同様の内容で開催ですが、大変好評をいただきました。残念ながら令和2年度もこちらの助成を頂き『居酒屋in笑顔カフェ』を計画していましたが、コロナ禍に突入し開催できませんでした。以前同様、老人ホームへの慰問や地域交流の大きなスペースをお借りして居酒屋気分が出せるように暖簾やお盆、焼き鳥など準備し、認知症の本人や家族がもてなす側にまわりいつもと違う環境を楽しんでもらう機会を年2回作りたと思います。 ④今回、新たに収穫体験を年2回開催したいと思います。 どんな方にも共通しますが、土と触れ作物の成長を経ての収穫体験はリフレッシュそのものです。農家さんにご協力を頂き、認知症の予防や刺激が認知症という病気についても良い効果があると思いこの機会を意図的に作り、笑顔カフェに参加の皆さんと楽しみたいと思います。		
事業の必要性と目的	世の中に認知症という病気が理解され始めているものの、認知症の人とご家族は、地域に自分の家族が認知症であり困った行動があることなど発信しにくいです。どこに行くにも「ここで大声を出したらどうしよう…」「いろいろ興味本位に聞いて欲しくない…」など家族の気持ちは、①戸惑い・否定から始まります。物事を受容するには、4つのステップ(①戸惑い・否定 ②拒絶 ③割り切り ④受容)があります。『笑顔カフェ』は、このスミズミに進まない心理ステップに寄り添いながら、日々の介護に係る中でのリフレッシュの場、出来ること・必要なことを一緒に安心して行える場となっています。		
スケジュール	①in老人福祉センターは、毎月第2(水)13:30~15:00開催 ②ウエルシアin木更津ぎおん店は、毎月第4(木)10:00~11:30開催 ③令和元年度同様に、4~6ヶ月に1回規模を大きく(イベント的に計年3回)開催予定 (1)『居酒屋カフェ』を年2回開催 (2)寄席やお笑い演芸会など年1回開催 ④農家さんにご協力を頂き、今回新たに収穫体験を年2回開催予定		
事業の特色	認知症施策推進総合戦略(新レゾナンス)には七つの柱があり、その4つめに『認知症の人の介護者への支援』があり「認知症カフェ」を開催することが求められています。具体的には、認知症の人の介護者の負担を軽減するため、認知症初期集中支援チーム等による早期診断・早期対応を行うほか、認知症の人やその家族が、地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う認知症カフェ等の設置を推進。また、家族向けの認知症介護教室等の取り組みについて、好事例を収集して全国に紹介し、その普及を進めると厚生労働省が掲げており、この国家戦略の一端を担っています。		

事業名称	笑顔カフェ		
団体名 (構成人数)	笑顔カフェ (4名)	代表者	上原 学
来年度以降の 事業展開予定	現在と同様に、 ①in老人福祉センターは、毎月第2(水)13:30~15:00開催 ②ウエルシアin木更津ぎおん店は、毎月第4(木)10:00~11:30開催 ③令和元年度同様に、4~6ヶ月に1回規模を大きく(イベント的に計年3回)開催予定 (1)『居酒屋カフェ』を年2回開催:その日だけの『居酒屋カフェ』を開催し、焼き鳥など用意し認知症の本人がもてなす側になったり、皆の協力を得ながら達成感や満足の気持ちを持てる機会を作りたいと考えております。 (2)寄席やお笑い演芸会など年1回開催:老人福祉センターなどを会場にして大いに笑っていただく(笑いは免疫力をアップさせるなど何事にも良い効果あり⇒認知症の方へも良い刺激あり)寄席の開催をしたいと考えております。 ④農家さんにご協力を頂き、今回新たに収穫体験を年2回開催予定 ※皆さんの関心のあるテーマで体験型の講師をお呼びし自宅でも出来る認知症の予防なども広めていきたいと考えております。		
審査基準: 「発展性・自立性」			
過去の活動実績	私たちは現在2ヶ所で『笑顔カフェ』を開催しています。 お店の都合などあり、以前こちらの助成金に応募した際の開催場所と変わっていますが、途切れないように新たな場所を見つけ開催を継続しています。 ①in老人福祉センターは、毎月第2(水)13:30~15:00開催で令和3年5月からはじめて今年5月で満4年を迎えます。 ②ウエルシアin木更津ぎおん店は、毎月第4(木)10:00~11:30開催で令和2年6月からはじめ今年6月で満5年を迎えます。 ※それぞれ月に1回開催継続しています ③『居酒屋カフェ』は、令和元年10月27日に開催し、33名の方の参加があり焼き鳥などの居酒屋気分を満喫し、高齢女性も10本以上召し上がったたり、参加者からも「一人で食べるよりたくさんの方と楽しみ、食が進んでびっくりした!」との感想もありました。大変好評を頂き、令和元年3月22日にもう1度『居酒屋カフェ』開催予定でしたが、コロナ禍となり実現できずとなりました。 ④令和元年10月26日には、清見台公民館文化祭に『笑顔カフェ』ミニカフェを開催し60名の方が参加しました。 その他カフェのオープニング、周年祭、木更津市家族介護教室とコラボ、ボランティアによる演奏会などイベント的な開催時は、20~30名の方が参加。その他では、毎回10名程度の参加があり、ゆっくり参加者同士でおしゃべりや作品づくりを楽しんでおります。		

令和7年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 10

事業名称	笑顔カフェ		
団体名 (構成人数)	笑顔カフェ (4名)	代表者	上原 学

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		材料費	100,000	認知症対策としての ワークショップ に係る材料代等
参加費	272,000	居酒屋カフェ 寄席、お笑いカ フェ 農業・収穫体験	報償費	400,000	○外部講師謝礼 (15,000×2ヶ所) ○木更津応援団いしわ たけいたさん他 (40,000円) ○寄席、お笑い (300,000円) ○農業体験講師謝礼 15,000円×2回)
			原材料費	160,000	○イベント食材購入費 用 ○カフェで使用する食 材
			会場費	25,000	イベント会場代
			消耗品費	20,000	コーヒー、カップ 等
			通信費	27,000	チラシコピー代等
			備品費	40,000	カメラ、のぼり、 コーヒーメーカー 等
合計	772,000		合計	772,000	

事業名称	木更津交流会		
団体名 (構成人数)	木更津交流会(3名)	代表者	石束 貴
事業の内容 審査基準： 「公益性・実現性」	当団体はFacebookで木更津市内最大のグループ「大好き木更津！好きだぜ木更津！！」を運営しており、2024年10月現在のメンバー数は4,500人を超えている。この掲示板では、木更津市内の生活、飲食、観光、店舗、企業に関する情報を発信し、市民同士の交流を図っている。 2024年9月には、グランポート木更津で交流会を開催し、60名が参加した。		
事業の必要性と 目的 審査基準： 「公益性」	木更津交流会は、地域住民の交流を促進し、多様な属性の人々が知恵や人脈、資源を得ることを目的とする。通常の市民活動は特定の属性の中での交流が中心となるが、木更津交流会では世代や職業を超えたつながりを生み、まちづくりや社会教育の推進に貢献している。 交流会を通じて生まれた取り組みには以下がある。 ・ まちづくり団体の活動広報、人材募集 ・ 木更津駅スペースの活用企画 ・ 地域活性化イベント（ゲーム、スタンプラリー等） ・ スポーツクラブと市内企業の提携 ・ 子ども支援事業の広告制作 ・ ウクライナ紛争・能登半島地震への募金支援 コロナ禍で活動が断続的になったが、2024年度以降は夏と冬の年2回、定期的に行う体制を整備し、さらなる発展を目指す。		
スケジュール 審査基準： 「実現性」	【第1回交流会】 ・ 2025年6月 準備 ・ 2025年7月 実施 【第2回交流会】 ・ 2025年12月 準備 ・ 2026年1月 実施		
事業の特色 審査基準： 「独創性」	これまでの交流会では、以下のような企画を実施。 ・ 木更津クイズ（古い写真を見て回答） ・ みんなで踊る「やっさいもっさい」 ・ 木更津大航海地図（地域のお店情報を記入） ・ じゃんけん大会、ビンゴ大会（協賛品のプレゼント） ・ 1分間スピーチ（自己PRタイム） これにより、参加者間の交流を促進し、交流会後のビジネスや生活の発展につなげている。 2024年9月の交流会のアンケート結果では、 ・ 新しい繋がりやマッチングが見つかる点に高評価 ・ 料理の量・質や進行について改善要望あり ・ 交流タイムの時間延長を求める声が多い これらのフィードバックを活かし、より充実した交流会を目指す。		

事業名称	木更津交流会		
団体名 (構成人数)	木更津交流会(3名)	代表者	石束 貴
来年度以降の 事業展開予定	今後の交流会では、ホテルや飲食店を会場として積極的に活用し、より多くの人に参加しやすい環境を整えていく。その上で、クイズ大会やじゃんけん大会、ビンゴ大会などを実施し、景品として地域の飲食店や事業者への送客支援を組み込むことで、地域経済の活性化にも寄与したい。 また、市内のあらゆるコミュニティに在籍する各事業者やプレイヤーが自己紹介をしやすい環境を提供し、交流促進の場を推進していく。特に大きな効果があった取り組みとして、自己紹介カードがある。自分のビジネス内容や繋がりたい人を明示することで、適切なマッチングが生まれ、交流の促進に役立っている。 各コミュニティ単体では資金調達や人材採用に制限があるため、木更津交流会はコミュニティや市民活動の枠を超えた交流を促進する役割を果たし続けたい。 木更津交流会の参加者は、木更津・君津・袖ヶ浦地域が中心だが、埼玉や東京都内、横浜からの参加者も増えてきており、木更津の立地を活かした交流が展開できている。今後は、木更津周辺の人材交流だけでなく、地域外の人々が木更津を訪れ、関係人口となる仕組みを構築し、さらなる地域活性化を実現していきたい。		
審査基準： 「発展性・自立性」			
過去の活動実績	2022.6 舵輪にて交流会実施（約100名参加） 2023.2 ワシントンホテルにて交流会実施（約60名参加） 2024.1 舵輪にて交流会実施（約80名参加） 2024.9 グランポート木更津にて交流会実施（約60名参加） 2025.3 中国料理東洋にて交流会実施予定（約70名参加予定）		

事業名称	木更津交流会			
団体名 (構成人数)	木更津交流会(3名)	代表者	石束 貴	

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	466,000		使用料・賃借料	350,000	会場使用料、音響・ 映像機器レンタル
参加料	234,000		印刷製本費	100,000	チラシ、ポスター
			報償費	200,000	外部業者、協力者へ の謝礼
			消耗品費	50,000	参加者用名札、アン ケート用紙、クリア ファイル、掲示用方 眼紙等
合計	700,000		合計	700,000	

事業名称	ノ木ノ家		
団体名 (構成人数)	ノ木ノ家 (3名)	代表者	堀切 辰也
事業の内容	人が幸せに生きるために必要な事 「健康」「良好な人間関係」「お金」 今回はその中でも、こどもが幸せに生き抜く力の中でも重要であり、生育の過程、家庭や学校で学ぶ機会の少ない「お金」について学べる こどもビジネススクール「ノ木ノ家」の運営をします。 ※小学校4年～6年生クラス、中学～高校クラスの2クラス こどもが将来、幸せに生き抜く力を身に付く、こどもの健全育成を目的として運営します。 こどもが自分を知り、社会を知り、思索し、どう社会に役立ち、人から感謝を得るのかをまとめた「事業計画書」の立案、発表を目標とします。 また、次年度以降には、一連の過程や考察を書籍にまとめ、広く活動を周知する広報を目指していきます。 【ノ木ノ家横町】2回の模擬店出店 模擬店の出店において、こども自身が主体的に考え、話し合い、商品企画、製造、資金調達、販売、会計、決算報告を行います。 その過程での様々な出会い、気づき、挫折、成長の体験、経験を通じて身に付けた知識、知恵を活かしてこども自身が市内で行う実際のビジネスの事業計画を作成、発表につなげます。 ※ノ木ノ家では出資、融資は行わずビジネススクールの運営のみ行います。 ※こども（こどもの家庭）からは参加費、市内企業からは聴衆として会議参加費を徴収します。 【ノ木ノ家商学校】9回の勉強会 模擬店の出店・報告、事業計画の作成・発表を行うにあたり 社会の一線で活躍している講師、スタッフから有益な情報やアドバイスを得る。また、参加者同士の意見交換も頻繁に行う。		
事業の必要性と目的	こどもを取り巻くゲーム、スマートフォン環境。家庭、学校以外の第3の居場所、活躍の場所の必要性。家庭環境による体験や経験の格差が課題となっている、昨今、こどもがこの事業の体験を通じて社会とつながり、主体的に考え自分を表現し自己実現し結果を求めていく経験が必要だと考えます。その経験、知恵が社会にでて活躍し生き抜く力を身に付ける一助となりこどもの健全育成を目的としています		

事業名称	ノ木ノ家		
団体名 (構成人数)	ノ木ノ家 (3名)	代表者	堀切 辰也
スケジュール 審査基準： 「実現性」	2025年度 ・広報（チラシ配布、掲示SNS）を行う ・勉強会（ノ木ノ家商学校）を9回開催 ・模擬店の出店を2回行う ・他団体、講師との連携 【スケジュール】 2025年 4月 スタッフミーティング 5月 環境整備及び、広報 6月 参加者募集開始 7月 第1回、第2回勉強会ノ木ノ家商学校 8月 ノ木ノ家横町（子ども未来キャラバン出店） 第3回勉強会ノ木ノ家商学校 9月 第4回勉強会ノ木ノ家商学校 10月 第5回勉強会ノ木ノ家商学校 11月 ノ木ノ家横町（木更津こども祭り出店） 第6回勉強会ノ木ノ家商学校 12月 第7回勉強会ノ木ノ家商学校 2026年 1月 第8回勉強会ノ木ノ家商学校 2月 第9回勉強会ノ木ノ家商学校（事業計画発表） ※ノ木ノ家横町実施時には社会福祉協議会ボランティア活動行事保険等に参加します。		
事業の特色 審査基準： 「独創性」	・こどもが商品やサービスを消費する側から商品やサービスを創造する側の目線を持ち、今までとは違った角度で社会を見ることが出来ます。 ・こどもが社会で生き抜く力のひとつである「稼ぐ力」＝「他人の感謝」の理解が深まり他者貢献、利他精神が身に付きます。 ・2クラス制にすることで異なる学年での情報、意見交換が行われ互いに学びあう関係が築かれる ・お金の稼ぎ方だけでなくお金の使い方についての学びもある ・小学生だけでなく、支援の谷間と言われている中学生や高校生の勉強、部活以外での居場所、活躍の場所になりうると期待される。 ・この事業はこどもの社会進出をきっかけとし、おとなも巻き込み市内での産業の創出、様々な地域の人をつなげ、みんなでまちをつくっていく力も秘めています。		
来年度以降の 事業展開予定 審査基準： 「発展性・自立性」	・継続してノ木ノ家を運営します。 ・今年度、こどもが発表した事業計画の実行を支援していきます。 ・市内の他団体との連携を図ります。 ・運営スタッフのスキルアップを目指し、学習会・講演会などの開催や参加を行います。 ・一連の活動を書籍化して全国のこども食堂を包括している【むすびえ】経由で全国のこども食堂に広く周知する ・近隣の児童養護施設などに対してもノ木ノ家商学校を行っていく		
過去の活動実績	新規事業のため無し ただし実行委員メンバーの活動実績として 中学校教員免許保持者・児童養護施設元施設長・こども食堂代表で活動を行っています。		

令和7年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 12

事業名称	ノ木ノ家			
団体名 (構成人数)	ノ木ノ家 (3名)	代表者	堀切 辰也	

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	440,000		消耗品費	90,000	事務用品、のぼり
協賛金	81,100		備品購入費	100,000	発電機
参加費 (こども・ 親)	180,000	1,000円×20人×9 回	燃料費	4,000	発電機
参加費 (市内企 業)	30,000	3,000円×5社×2 回	使用料・賃借料	50,000	車両レンタル、音 響、機材
			保険料	2,100	35人×2回×30円
			印刷製本費	80,000	チラシデザイン、 印刷
			ホームページ作 成、管理費	150,000	
			報償費	230,000	講師謝礼20,000円 ×9回 保育・警備スタッ フ5,000円×5人× 2回
			旅費	25,000	講師交通費
合計	731,100		合計	731,100	

事業名称	木曜日の夜ごはん		
団体名 (構成人数)	木曜日の夜ごはん(19名)	代表者	藤井 佳子
事業の内容	○毎週木曜日17:30~21:00 子どもたちの居場所を開いています。 シングルマザーや子育てに疲れた親子も来ています。 夕食の提供。 通信や普通科に通う高校生、不登校の学生、小学生、未就学児と親御さん。ボランティアの大学生、専門学生たち。それぞれ宿題をしながら教えあったり、好きなゲーム、音楽を聴いたり、絵を描いたり、お菓子を食べてソファでゆるゆるしたり、おもいおもいに過ごしています。 ○令和5年5月より、同上の木曜日の夜ごはんにて、 月1のおすそわけ弁当「夜・寄るごはん弁当」開催しています。 木曜日の夜ごはんの活動を応援してくれている大人たちと、木更津市社会福祉協議会の就労支援員と支援で関わっている人が一緒に来て、お弁当を詰める作業を手伝ってもらいながら、お弁当を作っています。 社協が運営する学習支援の子どもたちや、みらいラボに訪れている人たち、東口駅前の図書室FLAT、シングルマザーや地域の買い物難民の方へお弁当の配布を行う。社協の就労支援員たちが、支援で関わっている生活困窮世帯へお弁当の配達を行いたいと申し出をいただき、令和5年10月より、配達開始。お弁当はだんだんと増えていき、毎月60個以上作っています。 ○「はじまりの音楽祭」(年2回) 木曜日に来ている子供たち自身が、「ありのままの私」を表現する機会です。音楽あり、ダンスあり、絵の展示など。 シンガーソングライターの松本佳奈ちゃんが協力したい！と、ゲストLIVEで参加しています。次回は子供たちと佳奈ちゃんがコラボしてLIVE予定。 ○「木曜日の夜ごはん」活動応援チケット 1000円で3食分のごはん、お弁当になるチケットの販売を行います。 1人でごはんを食べる子どもや、生活に困っている人たちにお弁当を作り続けてきた私たちの活動を、心ある市民が気軽に応援できる仕組みがあるといいとアドバイスをもらい、今年度チャレンジしてみます。 まずは、「はじまりの音楽祭」開催時に呼びかけてみます。 ○コミュニティガーデン 開催場所の「ばった庵」裏庭で、通所で通ってくる利用者の高齢者、障がいがある方たちと共に、畑やハーブの栽培を行っています。 じゃがいも、さつまいも、夏野菜etc。季節の野菜を子どもたちに収穫体験、味わってもらいたいとの思いから、令和5年度より、子どもたちにも裏庭のコミュニティガーデンに関わってもらっています。 ○木曜日の夜ごはんに、ゲスト講師を招きます。(年1回) 多文化共生、多世代交流、言葉ではなく、肌で直に感じとってもらいたい。 ゲスト講師予定：実方裕二さん 重度の脳性麻痺を抱えながら、地域で自立生活を営んでいます。 バンドを組み、音楽活動で発信しています。 介助者に言葉で指示をだしながら、作り出す絶品料理の数々。 東京の世田谷区千歳船橋駅前に「こんにちは！誰でもスペース発信基地ゆうじ屋」を近年開所し、お年寄りから子どもまで、ごちゃまぜで遊んじゃおうを愛言葉に、さまざまなイベントを企画運営されています。 木曜日の夜ごはんにゲスト講師で参加いただき、子どもたちと共に料理を作ってもらいます。		

審査基準：
「公益性・実現性」

事業名称	木曜日の夜ごはん		
団体名 (構成人数)	木曜日の夜ごはん(19名)	代表者	藤井 佳子
事業の必要性と 目的	家や学校以外に、子どもが子どもらしく過ごせる居場所を開いています。親や先生以外の大人の存在、学年の異なる子どもたち同士が交わり関わることで、他者への思いやり、自己肯定感、自立心を育むものなのだと、子どもたちの姿を通して、学んできました。 毎週開いてることで、子どもたちの変化や小さなSOSに気づき、フォローすることができます。子どもたち同士、やりとりしながら、勉強を教えあったり、ギターを教えたり、お互いに刺激を受けながら、好きな音楽や趣味の世界を広げあっています。 木曜日に、ばった庵に来ている子どもたちの中には、中学生だったときに社協の学習支援に参加していた子どもたちもいます。地域のなかに子どもたちを受けとめる場が複数あること、その時々で連携していることが大切だと考えています。本当に困っているときは、困っているとなかなか言えないものです。市役所や相談機関に出向いていくことも敷居が高い。ふらっと立ち寄って、お弁当を持ち帰る、「寄るごはん弁当」を通して、顔の見えるつながりと、助けあいの輪を広げていきたいと思っています。 お金を払えば何でも手に入ってしまう時代に、あえて手間ひまをかけながら、コミュニティガーデンで季節の野菜やハーブの収穫、調理、多文化共生、多世代交流する体験を、子どもたちに提供します。		
審査基準： 「公益性」			
スケジュール	○木曜日の夜ごはん 令和7年4月～令和8年3月 毎週木曜日17：30～21：00開催 夕ご飯の提供、誕生日は手作りケーキやパフェでお祝い、庭でバーベキューや花火をしたり、子どもたちのリクエストを聞きながら、手伝ってもらえるところは手伝ってもらいながら、共に居場所を開いています。 ○夜・寄るごはん弁当 同上の木曜日の夜ごはんにて、月1開催 ○はじまりの音楽祭 年2回 春／秋 開催 ○コミュニティガーデン 通常の畑の手入れは、ばった庵の職員と利用者の高齢者、障がいがある方たちと行います。不登校の子どもが日中ばった庵で過ごしているとき、夏休みなど長期休暇で子どもたちが日中ばった庵で過ごしているときなど、畑の手入れを一緒に手伝ってもらいます。 ○木曜日の夜ごはんに、ゲスト講師を招きます。(年1回) 多文化共生、多世代交流、言葉ではなく、肌で直に感じてもらいたい。 ゲスト講師予定：実方裕二さん ゲストの体調をみながら日程調整を行います。		
審査基準： 「実現性」			
事業の特色	代表の藤井が勤務する通所介護施設で、主にサービス提供時間終了後の施設を子どもたちに開放しています。地域の学習支援やみらいラボと連携しながら、子どもたちが安心して暮らせる地域づくりを目指します。		
審査基準： 「独創性」			

事業名称	木曜日の夜ごはん		
団体名 (構成人数)	木曜日の夜ごはん(19名)	代表者	藤井 佳子
来年度以降の 事業展開予定	閉塞感にあふれている社会のなかで、気軽に相談したり、お茶を飲みながらほっと一息つける場が、子どもにも、大人にも必要だと感じています。 毎週木曜日の夜ごはんや月1のお弁当、コミュニティガーデンを続けながら、地域のなかに、誰でもかけこめる居場所を開き続けていきたいと思っています。 子どもたちの成長とともに、表現する機会を作っていきたいと話しています。ギターの演奏会、合唱、絵の作品展など、「はじまりの音楽祭」を子どもたちと共に企画していきます。		
審査基準： 「発展性・自立性」			
過去の活動実績	2018年頃より、代表の藤井が木更津市内の学習支援にボランティアとして関わるようになる。もともと生活保護のケースワーカーが、担当していた家庭の子どもたちの貧困の連鎖をどうにかしたい、子どもたちの居場所を、勉強をきっかけに作ろうとしてボランティアベースで始まった学習支援。 現在は市から予算が付き、木更津市社会福祉協議会が学習支援の運営を委託されており、元校長や教師が学習支援指導員として配置されるも、「勉強をさせる場所、監視されてみたい、ゆっくり過ごせない、行きたくないetc」当時中学生だった子どもたちが高校生、大学生と成長する中で、子どもたちのリアルな声を聞き、出逢った大人の一人としてつながり続けながら、社協の開く学習支援以外の場所が必要だと感じ、2020年にばった庵が開所してからは、毎週木曜日夜にばった庵を開き、子どもたちを受け止めてきた。 「家に帰ってもごはんがない、親が帰ってこない、一緒に食べてetc」シングルマザー、生活保護の家庭など、子どもたちは置かれた環境の中で生きていて。しんどい時はしんどいとなかなか言えない。学校に行っても行かなくてもいい。まずは、子どもたちが安心して過ごせる場所を開きながら、お腹が満たされる中で、それぞれ勉強したり、思い思いに過ごす時間を大切に、子どもたちの育ちを見守っていきたい。毎週木曜日に夕ご飯の提供、誕生日は手作りケーキやパフェでお祝いしたり、庭でバーベキューしたり、子どもたちに手伝ってもらえるところは手伝ってもらいながら、共に居場所を開いています。 令和4年に入り、進学相談や、アルバイトをしても学費や生活費がままならないことなどを、子どもたち本人から相談を受ける。木更津市の自立支援課の職員に相談、子どもたちの気持ちに添いながら役所に同行し、家庭の事情や今後のこと、進学については奨学金制度の利用など、市の職員と一緒に子どもたちに必要な支援を考えていきます。 令和5年は、発達障がいと診断を受け、学校を不登校、木更津病院を入退院していた中学生の受診に、親御さんとともに同席し、主治医には薬でコントロールするだけではなく、もっと本人の気持ちの傾聴や発散できる場、もっと生活のなかでできるリハビリを一緒に考えてほしいと訴える。子供は「はじまりの音楽祭」に参加、気持ちが落ち着いてきたこともあり、減薬しながら、高校は通信に通う準備を、手伝っています。 令和6年は、不登校の子ども以外にも、シングルマザーの親子や、子育てに疲れたお母さんが親子でごはんを食べながら、ほっと一息つく時間にもなっています。東口駅前の図書室FLATでもお弁当を配布したいと7月から配布開始。FLATにも子育て世代の親子が食べに来て、野菜が多くて美味しい、助かっていると声を聞きながら、居場所の必要性を感じています。		

事業名称	木曜日の夜ごはん		
団体名 (構成人数)	木曜日の夜ごはん(19名)	代表者	藤井 佳子

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	418,000		原材料費	358,000	木曜日の夜ごはん食材費 (毎週3,000円×4週×12 カ月、寄るごはん弁当 15,000円×12カ月) コミュニティガーデンで 使用する苗や種代
寄るごはん弁当カン パ代	90,000	大人300円×25人× 12カ月(子ども無 料)	消耗品費	170,000	使い捨て弁当容器割り ばし持ち帰り袋など、 ごみ袋、消毒、除菌 液、使い捨て手袋、洗 剤、画材費ほか
子ども祭り出店売上	11,000		備品購入費	20,000	ホットプレート
寄付金	97,000		報償費	80,000	講師謝礼20,000円× 4回
寄付金	12,000				
合計	628,000		合計	628,000	

事業名称	一般社団法人かんでんち		
団体名 (構成人数)	一般社団法人かんでんち(3名)	代表者	矢部 牧子
事業の内容 審査基準： 「公益性・実現性」	当法人は乳幼児から高齢者、障がいの有無を問わず誰もが安心できる居場所を提供し、世代を超え交わりの中で食・体験・活動を通じて自分らしく健康で生活をしていけることに寄与することを目的とする。		
事業の必要性と 目的 審査基準： 「公益性」	2022年3月に週3日15:00～18:00 日本財団「子ども第三の居場所」にて助成金を活用させて頂き公益財団法人ちばのWA地域づくり基金と日本財団各自治体と三者協定を締結し拠点運営など団体として活動しています。 子ども第三の居場所「つながるかんでんち」は子どもたちが安心して過ごせる全ての子どもが孤立せず自立へとつながる力を育む社会を目指しています。 暮らす、すごす、食べる、見守り、生き抜く力をみんなで育てて、いってらっしゃいと送り出すことを目的にしています。		
スケジュール 審査基準： 「実現性」	富士山と夕日、そして木更津のシンボルのひとつでもある赤い橋が見える西口にある古民家で毎週月・水・木15:00～18:00スタッフと食のボランティアと共に学習支援や遊び、イベントの企画を運営しています。主に小学生対象ですが、乳幼児から高齢者、障がいの有無を問わず安心できる居場所作りや大人と交流できる環境にてバランスを考えた食事提供をすることで親子一緒に食事ができる。そして、なにかに挑戦できる居場所として活動しています。		
事業の特色 審査基準： 「独創性」	多世代の居場所でもあり、地域にある町内会行事のお祭りに参加させて頂いたり、近所のおひとりで暮らしている方達と一緒にごはんを食べながら話を楽しんだり、学校のOBと一緒に「ものづくり」の活動もしています。キッチンにて食ボランティアと一緒にごはんの仕度やおやつを作ったりしています。		
来年度以降の 事業展開予定 審査基準： 「発展性・自立性」	拠点において行政関係機関（市民活動支援センター）、地区公民館、児童相談所などの連携もとりながら必要性を理解して頂きながら各々の働きやすさを感じられる居場所にて多世代の活躍する居場所にしていく。		
過去の活動実績	つながるかんでんちとして多世代交流の居場所として、まもなく3年を終え、2025年4月より自走を目指しています。 月・水・木 午後15時～18時まで開所し、地域の方達と一緒に夕食を食べながら、子供達と一緒に食育を含みながら活動内容を充実したものになっている。		

令和7年度木更津市協働のまちづくり活動支援事業 提案事業

No. 14

事業名称	一般社団法人かんでんち		
団体名 (構成人数)	一般社団法人かんでんち(3名)	代表者	矢部 牧子

収支予算書

収入項目	金額 (円)	備考	支出項目	金額 (円)	備考
協働のまちづくり 活動支援金	500,000		報償費	100,000	スタッフ謝礼
利用料	150,000		保険料	44,000	ボランティア保険
夕食代	144,000		印刷製本費	240,000	チラシ代
			原材料費	252,000	食材
			消耗品費	158,000	折り紙、クレヨン、鉛筆、本、文具等
合計	794,000		合計	794,000	